国立民族学博物館
昭和52年10月5日第1号刊行　ISSN0386-2283
平成26年5月1日発行　第38巻第5号通巻第440号

みんぱくは創設40周年を迎えます

月刊みんぱく

2014 5月号

特集 中国地域の文化
――その多様性と伝統の展開

多様性、歴史、そして文化の創造　塚田誠之
MAPシステム　野林厚志
自然環境に対応した生業　野林厚志
多様な民族楽器　伊藤悟
高床式住居の変貌　塚田誠之
おしゃれ心がいっぱい　横山廣子
土の香りのモダンアート　韓敏
古きを温めて新しきを創る　野林厚志
宗教と文字をめぐる文明・文化の展開　横山廣子
いくつもの「故郷」の融和　陳天璽
花嫁の輿、花轎　韓敏

メディア研究における技術と芸術

石黒 浩（いしぐろ ひろし）

街の中や家の中でロボットが活躍する日が必ずやってくるという信念で、人と関わるロボットの研究に二〇年弱前から取り組んできた。最初は、大学のキャンパスや建物内を歩き回る目を持ったロボットを作り、それから足は車輪だけども、機械の頭や腕を持ち、いわゆるロボットらしい見かけを持ったRobovie（ATR知能ロボティクス研究所）と呼ぶ、ロボットを開発した。そしてその人間らしさを探求するために、人間に酷似したアンドロイドの開発に取り組んできた。

Robovieの開発当初から考えてきたことは、ロボットは新しいメディアになるということである。人が持つ多くの感覚機能や脳の機能が人を認識するためにあるということは、多くの認知科学的・脳科学的研究からも間違いの無いことだと思う。故に、技術が進歩すれば、人間の生活を支える日常の様々なものは人間らしくなっていく。たとえば、最近であれば、炊飯器や洗濯機は音声でその状態を伝えるようになっている。人らしい姿形を持つロボットの最も大きな役割は、そのような人と関わるというメディアとしての役割である。荷物を運ぶや食器を洗うというような特定の作業においては、専用に設計された機械の方が効率的に作業をこなすことができる。しかし、人間と関わるには、人間の脳が自然に反応できる人間らしい姿形のロボットが必要になる。

これまでのロボットの研究では、特定の仕事のためのロボット開発が中心で有り、人間と関わりながら、人間の役に立つという視点において、ロボットは研究開発されてこなかった。しかし、日常においてもロボット利用が進んできた今日では、人間らしい姿形で人間と関わるロボットの研究はさらに重要性を増してきている。

この人と関わるロボットの研究はメディア技術の研究であると同時に、メディア研究がそうであるように、技術と芸術の境界に位置する研究でもある。人間らしいロボットを実現するには、人間らしさとは何か？人間とは何か？について解っている必要があるが、その問いの答えに我々は到達していない。すなわち、人と関わるロボットの開発そのものが、その問いを探求することである。そう考えれば、メディア研究とは様々な手段で人間を表現し、人間を理解しようとする芸術と非常によく似たものであることが解る。科学や技術の先端における発明、発見では芸術的センスが必要になるといわれるが、新しいメディアの研究では、常に技術と芸術が同居している。

プロフィール
1963年、滋賀県生まれ。工学博士。大阪大学基礎工学研究科特別教授、ATR石黒浩特別研究所客員所長。社会で活動できるロボットの実現を目指し、大学、研究機関、企業の枠を超え、分野の枠を超えてプロジェクトを推進する。人間そっくりの動作と外観をもったアンドロイドの開発者であり、人間とコミュニケーションする知能ロボットの研究者。近著に『人と芸術とアンドロイド』（日本評論社）

月刊 みんぱく
5月号目次

1 エッセイ 千字文
メディア研究における技術と芸術
石黒 浩

2 特集
中国地域の文化——その多様性と伝統の展開
2 多様性、歴史、そして文化の創造
——「中国地域の文化」展示場 塚田 誠之
3 MAPシステム 野林 厚志
4 自然環境に対応した生業 野林 厚志
多様な民族楽器 伊藤 悟
高床式住居の変貌 塚田 誠之
6 おしゃれ心がいっぱい 横山 廣子
土の香りのモダンアート 韓 敏
古きを温めて新しきを創る 野林 厚志
8 宗教と文字をめぐる文明・文化の展開 横山 廣子
いくつもの「故郷」の融和 陳 天璽
花嫁の輿、花轎 韓 敏

10 集めてみました世界の○○
揺りかご編

12 みんぱくInformation

14 文化遺産おもてうら
主役は人形なのか、人なのか？——ベトナムの水上人形劇
樫永 真佐夫

16 多文化をあきなう
カカオ産地は今——フェアトレードと歩んだ20年
鈴木 紀

18 味の根っこ
ファラーフェル（後編）
菅瀬 晶子

20 人間学のキーワード
マルチモダリティ
金田 純平

21 異聞逸聞
国境を越えて運営されるミュージアム
出口 正之

22 制服の世界、世界の制服
インドネシアの法廷の表と裏
高野 さやか

24 次号予告・編集後記

特集

中国地域の文化

――その多様性と伝統の展開

リニューアルされた中国地域の文化展示。広大かつ多様な地理的環境によって培われた、さまざまな出自をもつ人びとの歴史と文化を、九つのセクションであらわしている。中国地域の多様性、重層性を示すそれぞれの見どころを紹介する。

多様性、歴史、そして文化の創造

――「中国地域の文化」展示場

塚田 誠之（つかだ しげゆき）
民博 研究戦略センター

展示場に一歩足を踏み入れると、まず、カラフルな民族衣装を着用したおおくのマネキンが目にとまる。刺繍（ししゅう）をほどこした上衣や銀製装飾品をまとった華麗なもの、長い上衣に毛皮を着用したものなど多様多彩だ。その脇には、大画面で人びとの生活の場面を見ることのできる最新の装置、数かずの生業用具、民族楽器類、そして奥にチワン族の高床式住居の一部を再現した住居が見える。住居の次には絵画、観光土産といった大衆的なものから木彫・銀細工などの逸品に至るまで工芸品が並び、台湾原住民の刺繍をほどこしたあざやかな染織の衣装が見える。そのとなりには、さまざまな文字の掛け軸や経典が目につく。順路にそってさらに進むと、故郷の大陸から世界各地へ移住し、各地の文化に適応しながらも、竜舞・獅子舞や祖先祭祀（さいし）など伝統文化を維持してきた華僑（かきょう）・華人のセクションがある。最後には、漢族の祖先の位牌（いはい）や系図、花嫁の輿（こし）、婚礼衣装などが並ぶ。

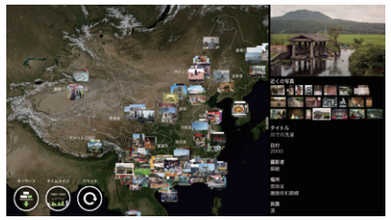
九つのセクションをつらぬくキーワードとして、多様性、歴史的連続性、文化の創造があげられる。まず、多様な自然環境のもとで生み出された多彩な民族の豊かな文化が示されている。大陸の少数民族や漢族、台湾の原住民といった諸民族、さらには華僑・華人が取り上げられている。生業について、北部では小麦、南部では水稲が主食として栽培されてきた。装いについて、大陸北部や西部の寒冷地と温暖な南部とでは様式に相異がみられる。宗教も中国三大宗教の儒教・仏教・道教だけでなく、上座部仏教、チベット仏教、イスラム教など地域によって多様で、また漢字以外にも少数民族のもとにはさまざまな文字がある。

次に歴史的な連続性、伝統が目を惹く。とくに漢族のもとで父系祖先祭祀が重視され、父系一族の系図を含む族譜が編纂（へんさん）され、祖先との関係性のなかに自らを位置付けてきた。四合院模型や花嫁の輿からも伝統がうかがわれる。漢族は三大宗教を生み出し、自らの勢力の拡大とともに、漢字を用いて（程度の差があるものの）それらを周囲に広めて中華文明圏を形成した。ただし、今日それらの宗教は孔孟の礼教や老荘思想をそのままの形で墨守しておらず、伝統が歴史のなかであらたに創出されてきた点も見逃せない。

そこで第三に、文化の絶え間ない創造が注目される。工芸品は、毛沢東グッズをはじめ、時代の要求に応じて創造されてきた。台湾原住民族の衣装にもあらたな創造が見られる。高床式住居の居間にある電化製品からは、人びとの暮らしが現代化の影響を受けていることが明白である。伝統文化を継承しながら、他方であらたな文化が創出され続けてきたのであり、その営為は現在も進行中である。このようなキーワードから、展示をとおして、中国地域の文化を実感していただきたい。

MAPシステム

野林 厚志（のばやし あつし）
民博 文化資源研究センター



多様な自然環境、多様な民族文化。これらを中国地域の時空間で表現するための方法としてあらたに挑戦したのが、MAP（Minpaku Anthropological Phototeque）である。中国地域の文化を研究してきた民博の研究者が撮りためてきた写真を時代にそって地図上に配置した、いわば写真の時空間データベースである。モニター上の地図や写真をタッチして選び、時代を絞り込むことで、地域の様子の移り変わりを画像で見る事ができる。こうした画像表示アプリはすでにネット上にもあるが、MAPの特徴は衣食住、観光、移動、といった人類学に関連したキーワードで画像をつなげるところにある。

中国地域にかぎらず、民博の研究者は世界中でフィールドワークをおこない、現地の様子を写真、音声、動画等で記録してきた。建築物や装いの変化、自転車から自動車へ、植生の景観、市場に流通している商品等々、画像から得られる情報は無尽蔵である。グローバル化や環境変化が急速に進んだ二〇世紀後半の世界の記録は、次世代に継承、共有するべき情報遺産としての価値をもつのである。MAPにはこうした情報を知覚化させる手法としての期待がこめられている。

生業セクション

自然環境に対応した生業

野林 厚志　民博 文化資源研究センター

中国地域は、東西南北にひろく西高東低の地勢のため、気温や降水量の差が多様な自然環境をつくり、これに応じて発達したさまざまな生業が人びとの暮らしを支えてきた。生業の中心は農業で、東北部のマメ、コーリャン、華北部の春・冬コムギ、華中の水田一期作、華南の水田二期作と、高緯度地域から低緯度地域にかけて変化し、内陸部のオアシス農耕や山岳部の焼畑農耕のように自然環境に適応しているという特徴をもつ。西部平原や高原地域では遊牧も含めた牧畜が盛んで、北方や西南部の森林地域では少数民族による狩猟活動も見られる。また、海洋沿岸部だけでなく内陸部の湖沼や河川でも漁労活動が盛んにおこなわれている。

あらたな展示ではこうした多様な生業を、狩猟、家畜飼育、淡水漁労、農耕、米と麺のコーナーにわけて紹介する。狩猟では北方や西南部の森林地域の少数民族による狩猟用具、家畜飼育では遊牧や舎飼いに関連した資料を中心に展示する。淡水漁労では網や筌などの漁具を扱うほか、鵜飼いに用いられる道具を展示する。広大な内陸部をもつ中国地域において淡水の水産資源は非常に重要である。農耕は水稲、小麦、その他の雑穀、豆類といった主食の基本となる作物を栽培し、収穫、加工するための道具を中心に展示する。また米と麺のコーナーでは、製麺器や麺うちの道具、なれずし作りの桶といった、米と麺の文化が育まれてきたことを紹介する。

民族楽器セクション

多様な民族楽器

伊藤 悟　民博 外来研究員

徳宏タイ族の太鼓の踊り

新展示では、代表的な楽器を厳選して、楽器の構造的な特徴や通時的な変化がわかるよう心がけた。

楽器は、発音機構や形状によって奏者の身体や演奏を束縛する一方、理想的な音を実現するために改造が重ねられたり、制約を逆手に取った演奏技法が編み出されたりしてきた。たとえば、「蘆笙」は民族によってさまざまな演奏方法があり、ミャオ族の場合は、はしごに登ったり踊ったりしながら演奏するなど曲芸的技術を研鑽してきた。

音に対する追求は多くの改良楽器からうかがい知ることができるだろう。中国音楽界はソ連の影響を受け、一九五〇年前後から管弦楽団の結成や舞台演奏を目的とした楽器改良運動がさかんになった。その過程で数多くの創作楽器も生み出された。改良された少数民族の楽器のなかで代表的なものが「ひょうたん笛」である。一九五〇年代に改良され、二〇〇〇年ごろにはタイ族の哏徳全氏によって普及活動が展開され、以来、中国全土で流行するようになった。現在は土産物として各地の空港でも売られ、学校教育にもとりいれられるほど人気を博している。新展示では、新旧さまざまな笛を展示しており、異なる時代の意匠や構造の変化を見比べることができる。

展示された楽器のなかには、楽器演奏や制作などを収録したビデオテーク番組がある。また、当館図書室には関連する映像と音響資料が所蔵されている。これらの資料をぜひ活用して、音色や演奏技法を追体験してほしい。

チワン族の高床式住居セクション

高床式住居の変貌

塚田 誠之　民博 研究戦略センター

筆者は広西チワン族自治区の西部や北部の農村で調査をおこなうことが多い。一九九〇年代前半期のころには、区都の南寧市など大都市の郊外の平野部を過ぎて山間部にかかると、車窓から木造高床式住居が見え始め、調査地に近づいた実感がわいたものだった。しかし、とくに二〇〇〇年代以降に農村の景観は大きく変化した。チワン族の若者は一九九〇年代半ば以降、沿海部に出稼ぎへ行き現金収入をえるようになった。貯金ができると、まず家を新築するのが流行した。その流行の波が農村のいたるところに押し寄せ、あっというまにコンクリート・ブロックの家に変化していった。

高床式住居は、一階に家畜を飼い、二階に人間が住む形式である。一九三〇年代や五〇年代に、「人畜同居」は不衛生でよくない習俗だという理由で、政府が畜舎をわけるよう推進した。しかし、多くの人びとは依然として高床式住居に住み続けた。流行の力は、かつて政策では変えることができなかったものを変えた。展示場で二階部分の一部を再現した高床式住居も、最近、働き手である一家の主が出稼ぎマネーを用いてコンクリートのビルに変えてしまった。

ただし、政府や学者は、一部の観光地で高床式住居の保存を訴えている。それが景観に合い、観光客が喜ぶからだ。このため観光用に高床式住居が保存されている地域もある。展示場で高床式住居に入って、この伝統的な住居における人びとの暮らしぶりを実感していただきたい。

新築された住居（2012年撮影）

改築前の高床式住居外観（2007年撮影）

装いセクション

おしゃれ心がいっぱい

横山廣子　民博 民族社会研究部

ペー族の熟年女性の宗教活動での装い（2007年、雲南省大理市）

日本の約二六倍の国土に、さまざまな民族が生活する中国。装いのセクションは、民族衣装をとおして多彩な中国を体感してもらう展示と位置づけられた。そのために従来は西南部に偏っていた民族衣装を全国規模に広げること、また、マネキンを使い、頭部から足元までの装いをトータルに見せることになった。収蔵資料を全面的に見直して選定するため、収蔵庫通いが始まったのだが、これがなかなか大変であった。

土地の気候風土や文化的特色を反映していて、どこかに魅力のある衣装を選ぼうと心がけた。地域や性別にバランスがとれていることにも注意を向けた。改めて点検すると、素晴らしい衣装なのに何かがひとつ欠けていて、トータルな装いを完成できないというケースがあった。同じ民族・地域の他の資料を慎重かつ徹底的に検討し、ようやく不足を埋める資料に辿り着いた場合もあった。

そういうプロセスを経て展示場に並ぶことになった民族衣装。今回は男性の装いもかなり展示できた。斬新で豪華なアクセサリーや緻密な手仕事には、是非、眼を凝らして、作り手のセンスを感じ取っていただきたい。チャン族とロッパ族の衣装は、八〇年代初めに収集されて以来、初めて日の目を見ることになった貴重な資料である。女性の衣装は若年者用が大半を占めるなか、ペー族の衣装は、孫ができた熟年世代が着用するものである。デザインに、配色に、そして着こなしに、着る人のおしゃれ心を見つけていただければ幸いである。

ロッパ族の衣装（男性用）　地域：チベット自治区ニンティ地区　標本番号H0087159ほか

工芸セクション

土の香りのモダンアート

韓敏　民博 民族社会研究部

中国では、農村に暮らす人びとの描く彼らの日常生活や伝統的行事を題材にした絵画を「農民画」とよぶ。一九五〇年代から七〇年代にかけて社会主義集団化や文化大革命などに応じて生まれたプロパガンダ・アートであった。改革開放以降、市場経済の原理とグローバル化を背景とする中国国内外の観光業と文化産業の影響を受けて、農民画は、土の香りのモダンアートとして評価され、人気の観光土産となっている。

中国には農民画の中心地が多数あり、陝西省戸県、山東省日照市と上海市金山区は三大農民画に数えられている。三月二〇日以降の中国地域展示場には、上記の地域のほかに少数民族の農民画も展示される。

農民画「薬草採りの娘」　曹秀文制作　地域：上海市
標本番号H0268425

年画、切り絵、刺繍、かまどの装飾などの伝統技法を取り入れた農民画は、単純で平面的な構図とあざやかな色彩が特徴である。「薬草採りの娘」は、上海市金山区中洪村の曹秀文の作品である。筆者のインタビューの際に、曹さんは、「一九七五年韓和平などの有名な画家たちが農民による再教育を受けるために、上海から村に来たときに、絵の描き方を教えてくれた」と語った。「薬草採りの娘」は、彼女の二〇歳のときの自画像である。人民公社の「はだしの医者（農村で養成され、農業に従事しつつ医療に当たる）」の助手だった曹さん、自ら薬草を採ってきて漢方薬をつくっていたので、労働模範として表彰された。このように、社会主義革命のなかで生まれた農民画だが、現在、農民たちの暮らしと歴史記憶を表現している。

金山農民画のルーツ、かまどの装飾（2010年、上海市金山区）

台湾原住民族セクション

古きを温めて新しきを創る

野林厚志　民博 文化資源研究センター

台湾の人口の八〇パーセントあまりが、一六世紀以降に台湾に移住、定着してきた漢族系の本省人、一四パーセントほどが第二次大戦直後に大陸部から国民党政権とともに移住してきた外省人とよばれる人たちである。本省人には福建省から移住してきた閩南人と福建省ならびに広東省から移住してきた客家の人たちが含まれている。これら漢族に含まれないのが、台湾原住民族とよばれるオーストロネシア系先住民族である。多様な民族で構成される台湾は、民族集団を意味する「族群」ということばを用い、「族群社会」と表現されることがある。

あらたな展示では原住民族工芸の伝統と現在を中心に紹介する。民博には、日本統治時代（一八九五～一九四五年）に収集された台湾原住民族に関する道具や衣服が収蔵されている。これらは、学術資料として研究に活用されるだけでなく、原住民族にとって、祖先の営みを伝える文化資源として注目されている。伝統文化を継承しながら、今を生きる自分たちの文化を創りだすうえで、こうした学術資料が参照されることが少なくないからである。

今回の展示では日本統治時代に収集された資料に加えて、全面に刺繍がほどこされたパイワンの壮麗な衣服、色鮮やかなタイヤルの織布でつくった衣服、伝統的な工法が再現されて作られたクヴァランのバナナ繊維製衣服といった、原住民族工芸の最前線で創られている工芸品の数々を展示する。とりわけ、タイヤルの織物は制作者が自ら民博の資料の精緻な調査を経て制作した貴重なものである。

パイワン族の衣装（女性用）　地域：台東市　標本番号H0274449ほか

宗教と文字セクション

宗教と文字をめぐる文明・文化の展開

横山廣子　民博民族社会研究部

中国を舞台とする文明・文化の交流と展開は複雑である。宗教と文字をとおして、多少なりともそれを俯瞰しようというのがこの展示である。

中国の宗教には仏教、イスラーム、キリスト教の世界宗教のほか、民俗宗教ともいえる道教、さらには儒教、そしてシャマニズムやアニミズム的要素の色濃い土着的信仰がある。

たとえば仏教には漢字、チベット文字、タイ（傣）文字の三系統の仏典が存在し、宗教実践面でも違いがある。漢訳された仏教は、民間では儒教、道教と習合した形で信仰され、漢族とその影響を受けた少数民族に広まった。チベット仏教はチベット族のみならず、元の皇帝が帰依し、次第にモンゴル族全体へも浸透した。元と同じく非漢民族・満族の清の皇帝は、それを信奉して自らを元の後継者として権威づけ、チベット仏教寺院を各地に建てた。また、中国西南端に住むタイ族やプーラン族が信仰する上座部仏教の文化圏は、東南アジアへと繋がっている。

他方、イスラームを信仰する人びとは、アラビア文字で記されたコーランへの信仰を核に、儒教・仏教・道教とは一線を画す大文化圏をなしている。西南部のイ族やナシ族では民族固有の儀礼が多数発達し、儀礼を司る者が伝承する独特の文字が生まれた。一九世紀以降のキリスト教の布教は、文字をともなう宗教を信仰する人びとのあいだでは、あまり成功しなかった。しかし、文字をもたない西南部の少数民族の一部で集団的改宗が起こり、彼らの言語を表記するために宣教師が創った表音文字が普及したのである。

アラビア文字書道をする馬慶鴻氏（回族）（2012年、雲南省大理市）

教会の落成式で歌い、踊るミャオ族（2012年、雲南省富民県）

華僑・華人セクション

いくつもの「故郷」の融和

陳天璽　早稲田大学准教授・民博特別客員教員

中国地域展示場の空を悠然と舞う龍が出迎える華僑・華人コーナーに入ると、すぐに大きな剪紙（切絵）「望郷亭」が目につく。これは中国民間芸術家トップ10と評された鄭蝴蝶の作品で、王瑞豊・林珠江夫妻が二〇〇五年北京百望山森林公園に寄贈した亭をモチーフとしている。本館で華僑・華人コーナーが設置されることを旧友である神戸華僑・陳耀林氏から聞きつけ、二〇一二年に遥々アメリカより来日し作品を寄贈してくださった。

王夫妻のご両親は、日本の占領下にあった台湾から日本に移り住み、王夫妻は日本で生まれ育った。文化大革命のころ、大学を卒業してまもなく、「祖国」建設のため北京に渡り、中国国際放送日本語部や北京農業大学、中国科学院遺伝研究所などで働いた。その後一九七九年、アメリカに移住した。

二〇〇二年北京を再訪した際、二十数年前、職場から見えていた禿山が今では緑に蔽われ、美しい森林公園となっていた。散歩している道中に目にした碑文から、百望山がかつて中国ゲリラ部隊と日本軍が戦った前線であったと知った。熱い思いに駆り立てられた夫妻は、昔日の戦地に「望郷亭」を寄贈することに決めた。

「人は誰でも故郷をもち、そこに思いを馳せている。どこの国籍か、どこの国民かに関係なく、わたしは人類の平和を願って建てた。その剪紙を民博で展示してもらえるのは望外の喜びだ」とやさしい笑顔で語った。口数少ない王氏のことばからは、いくつもの国を渡り歩いた華僑・華人に共通する融和の想いが見え隠れする。

リニューアルで華僑・華人コーナーが加わり、中国展示場とはいえ、中国地域の文化に関連する資料収集の範囲が、お隣の国からいっきに世界各地に広がった。集めた資料の奥にある移民たちのライフヒストリー、時間的・空間的連続性、そして多文化の融和をぜひ体感していただきたい。

切り絵「望郷亭」　鄭蝴蝶制作　地域：アメリカ合衆国　標本番号H0274930

継承される伝統中国セクション

花嫁の輿、花轎

韓敏　民博民族社会研究部

中国の農耕文明は黄河と長江流域で育まれた。その文明を担ってきた最大の民族集団である漢族の祖先祭祀や婚礼をとおして、中国人の生死観や宇宙観を体験していただきたい。

「轎」とは、人を乗せて肩で担いでいく輿のことで、中国で古くから使われてきた乗り物のひとつである。華やかな輿を意味する「花轎」は、実家で待つ花嫁を花婿が迎えに行くときに使われる。輿で花嫁を迎える漢族の風習は、南宋（一一二七～一二七九）にまでさかのぼる。

中華人民共和国建国後の一九五〇～八〇年代、この風習は見られなくなったが、九〇年代に入ると、遼寧や北京、上海、浙江省、武漢、南京、宿州、蘭州、昆明などで古い様式の結婚式が復活し、輿も再び作られるようになった。

花嫁の輿には、担ぎ手の数が二人あるいは四人、八人の三種類がある。展示されているのは四人で担ぐ中型で、安徽省宿州市在住の輿職人、徐子松（八五歳）が二〇〇八年に作製したものである。輿の枠組みは竹で作られ、龍鳳などの吉祥図案が施された赤の錦やガラス板が枠組みを飾っている。ガラス板の裏には、中国の四大美女（西施、虞美人、王昭君、楊貴妃）の画像が貼り付けられている。

輿の上の天蓋には、厄払いの鏡や不老長寿の仙人、歴史上の英雄（三国時代の劉備、諸葛孔明、関羽、張飛、趙雲、黄忠、宋代の穆桂英、楊宗保など）の張り子の人形が飾ってあり、めでたくにぎやかな雰囲気を演出している。

輿で花嫁を迎える儀式は、にぎやかで車より費用が安く、環境にもやさしいため、各地で静かなブームとなっている。

移動中の花嫁の輿（2008年、安徽省宿州市）

集めてみました世界の

みんぱくが所蔵している世界の揺りかごを集めてみました。なわや葉で編んだものから厚い板でつくられたものまで、赤ちゃんのための揺りかごも、地域によってずいぶんと形や使いかたに違いのあることがわかります。

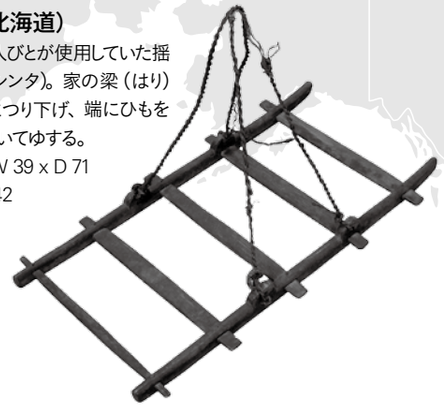
※寸法の単位はセンチメートルです。

フィンランド
平和な家庭生活のシンボルとして、人びとに愛される家具のひとつ。赤系統の彩色は、フィンランド東部の特徴である。
H 56 x W 94 x D 54
H0002938

モンゴル
天幕（ゲル）の暮らしとともに使われていたモンゴルの揺りかご。
H 46 x W 34 x D 100
H0201912

中国
オロチョンの人びとが使用していた揺りかご。頭を支える部分は布張りで、そのうしろには動物の骨を連ねた飾りがついている。
H 26 x W 26 x D 62
H0129691

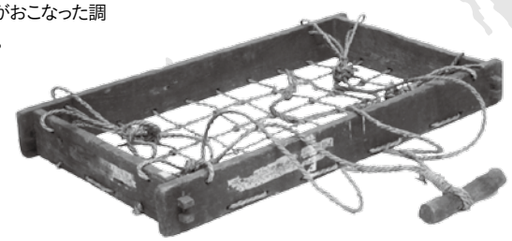
日本（北海道）
アイヌの人びとが使用していた揺りかご（シンタ）。家の梁（はり）や三脚につり下げ、端にひもをつけて引いてゆする。
H 45 x W 39 x D 71
K0001842



カナダ
ベラベラの人びとが使用していた揺りかご。側縁部と、底面から頭端にかけて突き出した部分は、曲げの技法によりそれぞれ一枚のヒノキ科の材で構成されている。
H 31 x W 30 x D 83
K0004747

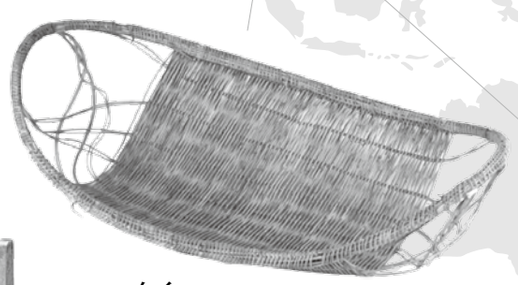
ハンガリー
色つきの花柄の模様が描かれたこのような揺りかごは、ハンガリーでは1950 年頃までよく使われていた。
H 83 x W 106 x D 94
H0031670

日本（鹿児島県）
トカラ列島宝島の民具のひとつ。昭和9 年 5 月に渋沢敬三らがおこなった調査により収集されたもの。
H 10 x W 92 x D 55
H0016639



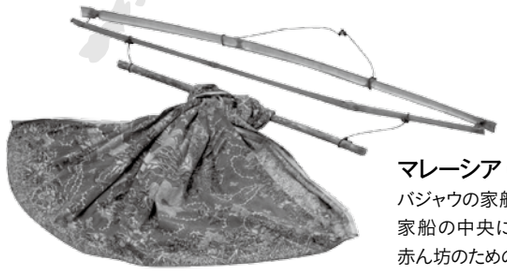
フィリピン
ハヌノオの人びとが使う、やしの葉で編まれたハンモック式の揺りかご。端には竹の柄がついている。
H 38 x W 56 x D 41
H0063628

タイ
赤ん坊をのせるかごの中には布団を敷き、家の梁（はり）からひもでつるして揺らす。
H 27 x W 87 x D 50
H0028867

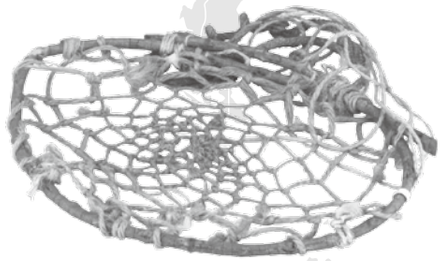


インド
透かし文様が施されたブランコ型の揺りかご。ラージャスターン州で使われていたもの。
H 100 x W 101 x D 52
H0092543

マレーシア（カリマンタン島）
バジャウの家船で使われていたもの。家船の中央に寝床のマットを敷き、赤ん坊のための揺りかごをつるす。
H 82 x W 111 x D 2.7
H0198297



メキシコ
マゲイ（リュウゼツランの一種）からとった繊維で編まれた自家製の揺りかご。
H 3.4 x W 71 x D 53
H0131911



みんぱくフォーラム2014
東アジア展示があたらしくなりました!!
朝鮮半島の文化・中国地域の文化・日本の文化「沖縄のくらし」「多みんぞくニホン」の展示が新しくなってオープンしました!

■関連イベント

◆みんぱく映画会
「台湾映画鑑賞会――映画から台湾を知る」
上映の前には映画の内容に関連して台湾社会や歴史経験に関する解説をおこないます。
日時　5月6日（火・振休）
　13時30分～16時30分（13時開場）
会場　本館講堂（定員450名）
「超級大国民」
二二八事件とその後の政治的弾圧にむきあった台湾の人びと。
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
※当日11時30分より東アジア展示場にて展示解説あり。

◆展示場クイズ「みんぱQ」
中国地域の文化編　5月27日（火）まで

企画展
「みんぱくおもちゃ博覧会――大阪府指定有形民俗文化財『時代玩具コレクション』」
会期　5月15日（木）～8月5日（火）
国内の玩具コレクションの中でも最大規模のコレクション展示です。日本の玩具史の概要を知ることができます。

みんぱくワールドシネマ
「マイネーム・イズ・ハーン」
9・11テロ以降のアメリカにおけるイスラム教徒の葛藤と勇気を描いた作品を通して異文化に生きる人びとについて考えます。
日時　5月31日（土）13時～16時30分
　（12時30分開場）
会場　本館講堂（定員450名）
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
※当日10時から講堂入口にて整理券を配布
※当日11時より南アジア展示場にて展示解説あり。

公開フォーラム　JICA委託事業
国立民族学博物館　博物館学コース
「世界の博物館2014」
4カ国10名の博物館専門家が、博物館の活動や課題を報告しながら、互いに問題点を共有し、検討します。
日時　5月31日（土）13時～17時15分
会場　本館第5セミナー室（70名）
※要事前申込、参加無料
申込締切　5月23日（金）必着（先着順）
お問い合わせ先
研究協力課国際協力係 博物館学コース事務局
電話　06・6878・8250

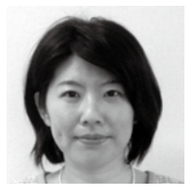
みんぱく創設40周年記念　カレッジシアター
「喜味家たまごの地球探究紀行」
研究者が撮影した世界各地の記録映像と研究者によるレクチャー。近鉄百貨店ならではの美味しいお弁当付き。
時間　11時～13時30分
会場　あべのハルカス近鉄本館「スペース9」
主催　産経新聞社
特別協力　国立民族学博物館、千里文化財団
※要事前申込（申込締切は各回開催日の1週間前）、参加費　各回4940円
5月14日（水）講師　福岡正太（本館 准教授）
霊と交流する楽器、ゴングの今
5月21日（水）講師　池谷和信（本館 教授）
美しさをもとめて――ビーズをめぐる人類の旅
5月28日（水）講師　野林厚志（本館 教授）
美麗島の手しごと――台湾の伝統刺繍

カレッジシアターみんぱく見学ツアー
新 中国地域の文化展示
日時　5月9日（金）11時～13時30分
集合場所　本館エントランスホール
講師　横山廣子（本館 准教授）
「中国ムスリム「回族」の信仰と暮らし――雲南省大理から」
※要事前申込、参加費2000円（観覧券、食事代含む）
お申し込み・お問い合わせ先
ウェーブ産経カレッジシアター係
電話　06・6633・9087

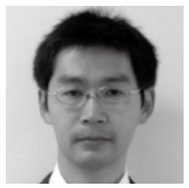
●研究公演、映画会等参加方法変更のお知らせ
4月から、研究公演、みんぱく映画会、みんぱくワールドシネマにご参加いただく際、当館の観覧券のご提示をお願いすることといたしました。
なお、みんぱくフリーパス、国立民族学博物館友の会会員証、キャンパスメンバーズの学生証等をお持ちの方は、ご提示いただくと、観覧券は不要です。

●無料観覧日のお知らせ
5月5日（月・祝）のこどもの日は、本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。
※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時（土日祝を除く）です。

研究部の新メンバーのご紹介（4月1日付）
松尾瑞穂（まつおみずほ）准教授（先端人類科学研究部）
新潟国際情報大学情報文化学部准教授を経て現職。インドにおけるジェンダーと生殖医療技術の文化的受容について研究。主な著書に『ジェンダーとリプロダクションの人類学――インド農村社会における不妊を生きる女性たち』（昭和堂、2013年）などがある。



吉岡乾（よしおかのぼる）助教（民族社会研究部）
日本学術振興会特別研究員PDを経て現職。専門は記述言語学。ブルシャスキー語、ドマーキ語といった、パキスタン北部の言語をフィールド調査。論文「A reference grammar of Eastern Burushaski」にて、2012年に博士号を取得。



国立民族学博物館創設40周年記念
日本文化人類学会50周年記念
「イメージの力――国立民族学博物館コレクションにさぐる」
迫りくる力、驚きとの出会い、このアートを体験しよう
会期　6月9日（月）まで
会場　国立新美術館　企画展示室2E（東京）
＊
「渋沢敬三記念事業 屋根裏部屋の博物館――Attic Museum」
会期　5月6日（火・振休）まで
会場　埼玉県立歴史と民俗の博物館

みんぱくゼミナール

時間　13時30分～15時（13時開場）
会場　本館講堂
定員　450名（当日先着順）
参加費　無料（展示をご覧になる方は観覧料が必要です）

第432回　5月17日（土）
多みんぞくニホンのいま――特別展から10年
講師　庄司博史（本館 教授）

人種差別デモに対して催された反差別デモ（2013年大阪 藤井幸之介撮影）

2004年3月特別展「多みんぞくニホン」がみんぱくで開催されました。外国人の急増により単一民族社会といわれた日本の大きな変化を予兆する展示でした。10年後の今年3月本館展示に「多みんぞくニホン」のコーナーが設けられました。この間、経済不況、東日本大震災など多くの試練をへて日本は外国人にとってどのように変化したのでしょうか。

第433回　6月21日（土）
現在進行形の海外移民――韓国を去りゆく人びとの胸のうち
講師　太田心平（本館 准教授）

2013年にソウルで開かれた「移民博覧会」（金桂淵撮影）

朝鮮半島の外に暮らすコリアンは、いまや750万人以上。しかし、韓国において移民という行為は、けっして昔の話などではありません。今日でも、毎年、人口の0・3%以上もの人びとが、外国へと移民していきます。人びとはどうして韓国を去ろうとするのか、近年の調査研究をもとにお話しします。

みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

会場　本館ナビひろば
時間　14時30分～15時30分
※申込不要、参加無料（要展示観覧券）
本館の研究者が来館された皆様の前に登場します!「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

5月4日（日）
話者　樫永真佐夫（本館 准教授）
話題　ベトナム、黒タイのディエンビエンフー60年
5月11日（日）
話者　横山廣子（本館 准教授）
話題　雲南省におけるキリスト教の展開
5月18日（日）
話者　南真木人（本館 准教授）
話題　在留ネパール人の現在
5月25日（日）
話者　杉本良男（本館 教授）
話題　インド映画の新時代

刊行物紹介

■小田博志、関雄二 編著
『平和の人類学』
法律文化社　2,400円（税抜）
草の根の人々がいかに「平和している」のか。この問いに人類学的にアプローチすることが本書の目的である。国家や国際社会とは異なった次元で、平和的なつながりを形成する人々の多様な能力を明らかにする。

■平井康之、藤智亮、野林厚志、真鍋徹、川窪伸光、三島美佐子 著
『知覚を刺激するミュージアム』
学芸出版社　2,300円（税抜）
体感し、思考したくなる展示と鑑賞の最前線へ。コミュニケーションが生まれ、知覚を刺激する場を創造する、これからのミュージアムのつくりかた。

友の会

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く）　FAX 06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/　　e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会講演会（大阪）
会場　本館第5セミナー室
定員　96名（当日先着順、会員証提示）
第432回　6月7日（土）14時～15時
【新展示関連】
多みんぞくの街・新大久保とハラールフード産業
講師　菅瀬晶子（本館 助教）
新大久保が多みんぞくの街となった歴史を振り返るとともに、近年もっとも活気のある「イスラーム横丁」に注目します。イスラームの教えに沿った食べ物であるハラールフード。これをめぐる産業は、この街でいかにして花開いたのでしょうか。ハラールフードのサンプルを手にとりながらお話しします。
※講演会終了後、講師をまじえた1時間程度の懇談会をおこないます。
第433回　7月5日（土）14時～15時
【新展示関連】
ウチナンチューと教育
講師　日高真吾（本館 准教授）
　呉屋淳子（本館 機関研究員）

東京講演会
会場　モンベル渋谷店5Fサロン
定員　60名（要申込）※一般の方も参加可能です。
第109回　6月28日（土）14時～15時
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる
講師　小長谷有紀（人間文化研究機構 理事、本館 教授）
現在、民博では梅棹忠夫ののこした資料を整理し、梅棹アーカイブズとして公開する作業を進めています。なかでもモンゴル調査は、彼にとって特別な意味をもつものでした。克明な記録の数々を整理する楽しさ、その調査ルートを実際にたどった旅の途上での出来事をお話しします。併せて梅棹のフィールドノートのレプリカもお見せします。
※講演会終了後、講師をまじえた1時間程度の懇談会をおこないます。

第84回民族学研修の旅
梅棹忠夫のモンゴル調査をたどる旅――中国内モンゴルの草原と史跡をゆく
9月8日（月）～14日（日）　7日間
※旅の詳細は「友の会」までお尋ねください。

※国立民族学博物館ミュージアム・ショップの記事は、表紙うらに移りました。

BORDERLESS HERITAGE

文化遺産

おもてうら

主役は人形なのか、人なのか？

――ベトナムの水上人形劇

樫永真佐夫　民博 研究戦略センター

無形の文化遺産の代表とされる芸能。その上演は、毎回、さまざまな条件に影響される。ベトナムでは、文化遺産の指定そのものが芸能を大きく変えた。

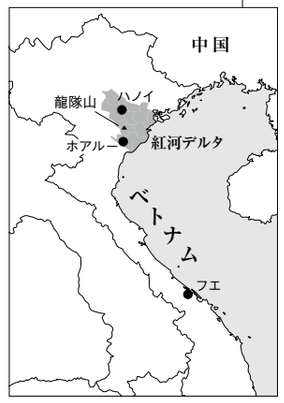
廃止されたサービス

タンロン水上人形劇場はハノイの代表的な観光地である。かつてはチケットを買うと、カセットテープ（二〇〇〇年ごろか、CDにかわった）と扇子がお土産についてきたものだ。カセットには舞台演奏や台詞が録音されていて、扇子には劇の一シーンのような村の牧歌的光景が、劇場の宣伝とともに分厚い手漉きの粗い紙に印刷されていた。二〇一二年に五、六年ぶりに劇場を訪ねると、そのサービスは廃止されていた。公演内容も驚くほど変わっていた。

現在タンロン水上人形劇では、民俗楽器にくわえてドラムも用いられている

皇城の世界遺産認定

変わったのは二〇一〇年だった。ちょうどこの年、ハノイは遷都千年祭の歓喜に沸いていた。歴史を遡ると、漢代以来千年にわたって中国支配下にあった紅河デルタの住民が独立王朝を築いたのが九三八年。都が紅河デルタ南縁に近いホアルーから、一〇〇キロ離れたデルタ中心のハノイへ北遷されたのが、一〇一〇年のことだった。以来、阮朝（一八〇二―一九四五）期にフエに都が移るまで、ハノイにある昇竜皇城で歴代皇帝は執務した。皇城の遺跡群は、遷都千年を記念する年にユネスコの世界遺産に認定され、祝賀に花を添えた。これと軌を一にして、タンロン（昇竜）水上人形劇場でも公演内容が一新されたのである。



紅河デルタの千年

それにしても、水上人形劇がハノイ遷都千年とどんな関係があるのだろうか。代表的な観光地という理由もさることながら、じつはハノイを都に定めた李朝（一〇〇九―一二二五）とちゃんと縁があるのだ。

水上人形劇では、池のなかにたてられた水亭の簾のむこうから人形遣いが腰まで水につかって操る人形たちが、楽団の演奏にあわせて物語や踊りを水上で演じる。雨乞いともかかわる民衆娯楽として、紅河デルタのいくつかの村で継承されてきた。その最古の記録がハノイ市の南方五〇キロに位置する龍隊山（標高七二メートル）に、李朝皇帝仁宗による碑文（一一二一年）のなかに残る。

ベトナム宗教研究家、大西和彦氏の教示によると、大氾濫原にはりめぐらされた水運路の大動脈の交差点に突兀たる龍隊山は、開拓の拠点であった。瘴気が満ち禽獣が憩うのも厭う湿原の入植者たちにとって、水上人形劇はこのうえない娯楽だったにちがいない。約九百年前の碑文は、仙人の舞、水を噴く神亀など、現在のものに近い演目があったこと、年に三回の上演が定着していたことも記している。推するに、劇の発生はもっと古い。恵みをもたらすかと思えば容易に牙もむく水そのものが舞台装置をなす水上人形劇は、おそらくデルタ千年の生活を映している。

軽くて水に強いイチジクの木で彫られた人形を、簾の向こう側から人形遣いが操る

国民の劇場から外国人の劇場へ

現在タンロン水上人形劇場では、約四〇分間の公演が毎日六、七回おこなわれている。一九九二年から二〇一〇年までと比べると、公演回数が増えたかわりに、公演時間は短くなり、演目も一七から一一へと減った。

演目を見ると、科挙の進士が故郷に錦を飾る行列、中国明朝による一時的支配をくつがえし一五世紀に黎朝を建てた黎利が宝剣を神亀に返還した伝説といった歴史物が消滅した。釣りや野良仕事など生業の演目も減った。いっぽうで祭り太鼓、闘牛、競馬、御輿など村の祭礼や娯楽の演目が増えた。いずれも物語性に乏しいが、民俗情緒に富み、中国から見れば謀反人の歴史英雄も登場しない。電子楽器も加わったテンポのいい音楽にのって、次々と演目が消化されていくので、ことばがわからなくても退屈しない。もともとベトナム戦争中の一九六九年に、ホーチミン主席の指示で国民に娯楽を供するために設立された劇場だが、今では観客の大部分が外国人なのである。

演目が変わっただけではない。演奏者や人形遣いの登場と退場はショーアップされ、つまり芸能の伝承者はもはや人形の裏方でなくなった。伝承者が日の目を見なければ、人形たちはイチジクの木偶に化すかもしれない。だから伝承者の保護と育成を政府は支援し、かつ公演ではベトナムらしさが世界にむけてアピールされる。前々からベトナムでは、ユネスコの無形文化遺産としての登録が切望されているのだ。そしてそれは遠くない将来、実現されるのではなかろうか。

タンロン水上人形劇場付近の土産物屋で、すでに役目を終えた人形が売られていることも

多文化をあきなう

カカオ産地は今——フェアトレードと歩んだ二〇年

鈴木紀（すずき もとい）　民博 民族文化研究部

中央アメリカのベリーズ国で、フェアトレード・チョコレートの原料となるカカオ生産が始められて、二〇年が経過した。カカオとチョコレートによって、ベリーズ国はどのように変わったか。そしてフェアトレードが対峙する、もうひとつの「あきない」とは。

マヤ・ゴールド

マヤ・ゴールドは、イギリスやアメリカで売られているフェアトレード・チョコレートだ。イギリスではとくに、初めてフェアトレードの認証マークが付いた商品として有名で、一九九四年の発売以来、根強い人気を保っている。オレンジとブラウンのパッケージに包まれたチョコレートは、カカオ成分が高めのビター味で、さわやかなオレンジの香りがする。

原料のカカオは、中央アメリカ、ベリーズ国のトレド州で生産されている。農民の大半は、モパンやケクチというマヤ系の言語を話す先住民族の人びとだ。カカオは、先スペイン期のマヤ文明の時代から栽培されてきた。しかし、この地方で商業的なカカオ栽培が始まったのは、一九八〇年代のことである。米国政府の開発援助を通じて近代的な農業技術が導入され、カカオの生産性を高める試みが始まった。できたカカオは大手米国企業が買い取る、いわゆる開発輸入型のプロジェクトだった。ところが一九九〇年代の初頭に国際的なカカオ価格が暴落する。プロジェクトは経済的に破綻し、当初約束されていたカカオの高い買い取り価格は反故にされた。

窮地に陥った農民たちを救ったのがフェアトレードだった。イギリスの有機食品会社グリーン・アンド・ブラックス社が、市場価格の二倍以上でカカオを買い付け、それを原料にマヤ・ゴールドを売り出したのである。同社のベリーズ側のパートナーであるTCGA（トレド・カカオ生産者組合）は、この二〇年間で組織を拡大し、現在の組合員は一〇〇〇人を超えている。フェアトレードの意義は、こうした地域の歴史を踏まえてこそよく理解することができる。

チョコレートで観光振興

近年はベリーズ産のチョコレートが次々に登場している。トレド州サンフェリペ村の家族経営の工房で製造販売されているイシュカカオ（Ixcacao）チョコレートは、そのひとつだ。地元の観光業者が企画するエコツアーの訪問先になっており、観光客はまず近隣の農場でカカオの木を観察し、工房でチョコレート作りを見学する。手作りチョコレートも絶品だが、ここでの目玉商品はカカオ・ワインである。パルプとよばれるカカオ豆周囲の綿状の部分を発酵させてつくったお酒だ。チョコレートというよりも甘酸っぱいジュースのような味がする。

チェイル（Che'il）チョコレートは、スタンクリーク州マヤセンター村のマヤ博物館のオリジナル商品である。博物館といっても展示室は一間だけで、伝統的な民具が並んでいる。館長のサキ氏は、以前はツアーガイドをしていたが、観光客がマヤ文化について学べる施設をつくりたいと思い立ち、二〇〇八年に開館した。もちろんチョコレートもマヤ文化を体験するための重要な要素だ。事前に予約をすれば、訪問客は博物館でチョコレート作りを楽しめる。

この他にもベリーズにはゴス、コットン・ツリー、ココア、モホなどの小規模なチョコレートメーカーがあり、いずれもトレド州のカカオを使用している。その製品は国際空港やリゾートホテルで売られており、ベリーズの観光振興に一役かっている。

フェアトレードへの挑戦状

ベリーズ産チョコレートの増加は、TCGAに有利に働く。カカオの売り先を、国外のフェアトレード市場だけでなく、国内にも確保できるからだ。フェアトレードとはいえ、それに依存しすぎることはリスクになる。

ところが近年TCGAにライバルがあらわれた。トレド州にマヤ・マウンテン・カカオ（MMC）社が設立され、ダイレクトトレード（直接買付）という方法を導入した。TCGAは協同組合なので、組合員からしかカカオを買うことができない。これに対しMMC社は個々の農民と直接取引をする。しかも収穫したばかりのカカオを農家の庭先で即金で買い取る。カカオの香りを高める収穫後の発酵作業は、もはや農民の手を離れ、MMC社の工場でおこなわれる。農民にとっては作業の手間が省け、企業にとっては発酵を一括管理して高品質のカカオ製造が可能になるので、ウィンウィン（双方満足）の関係だとMMC社は説明する。

実際、TCGAのメンバーのなかには取引先をMMC社に替えた者も多い。これは農民にとって、市場の選択肢が増えたことを意味する。しかし小規模生産者の連帯というフェアトレードの理念を重視し、協同組合活動を実践してきたTCGAにとっては、MMC社の参入は大きな脅威となっている。

ちなみにMMC社のカカオは米国に輸出され、ボストンの新興ブランド、タサ（TAZA）チョコレートの原料になる。フェアトレードは、買い物によって世界を変える方法といわれるが、フェアトレードばかりが生産者を利するわけではない。ベリーズ産カカオを使ったチョコレートだけでも、どれを買うべきか決めるのは悩ましい。それでも、生産地の事情に少しでも通じておくことが、正しい選択をするための条件であることは間違いないだろう。

マヤ博物館

ベリーズ国プンタゴルダ市のTCGA事務所

マヤ・ゴールド

ベリーズ産チョコレート

マヤ・マウンテン・カカオ社の
輸出用カカオ袋

道具の説明をするマヤ博物館館長フリオ・サキ氏

味の根っこ

アラブの豆コロッケ

ファラーフェル（後編）

菅瀬 晶子（すがせ あきこ）　民博 研究戦略センター

日本で手に入るファラーフェル・ミックス。左はイギリス、右はレバノンの製品

ベジタリアンの定番へ

ファラーフェルに出逢ったのは学生時代、はじめてパレスチナへ行ったときのことだ。エルサレム旧市街最大の門、ダマスカス門を入ってすぐのところにあったスタンドで、昼も夕もファラーフェル・サンドウィッチばかり食べていた。あまりに気に入りすぎて、帰国時に即席のファラーフェル・ミックスを買ったほどである。水を注いで混ぜれば簡単にファラーフェルのタネができるというもので、帰国後すぐに家で試し、その完成度におおいに満足したものだ。

今や、ファラーフェル・ミックスは日本でも簡単に手に入る。売られているのは、おもに自然食品店だ。欧米のベジタリアン、ことに動物性食品をいっさい採らないビーガンから注目を浴び、中東のみならず、イギリスでもミックスが製造されるようになったためである。もはやファラーフェルはパレスチナのソウル・フードにとどまらず、全世界のベジタリアンの定番になっている。中東料理の代表格としての地位も健在で、本来ファラーフェルを食べる習慣がないイラン人やトルコ人が経営する中東料理店でも、ファラーフェルを出すところが増えている。

「トロントでもファラーフェル・スタンドを見かけたよ」というと、パレスチナ人の友人たちは大いに喜ぶ。ただし、店のオーナーが誰であるのかはとても重要だ。それがイスラエル人であり、ファラーフェルがイスラエル料理として喧伝（けんでん）されているとなると、彼らは眉を曇らせる。

トロントのグリーク・タウンにあるトルコ料理店。メニューの看板にファラーフェルの文字がみえる

彼らにとって、それは「文化の簒奪（さんだつ）」にほかならないからだ。

ファラーフェルは誰のもの？

「イスラエルの国民食、ファラーフェル」

そんなうたい文句とイスラエルの国旗が添えられたファラーフェル・サンドウィッチの絵はがきが、エルサレム旧市街で売られている。エルサレムだけではなく、イスラエルのどこでも見かけるものだ。エルサレム旧市街でファラーフェルに出逢った外国人観光客たちは、無邪気にその絵はがきに手を伸ばす。そこに込められた意図に、とおりすがりの彼らが気づくことはない。

一九四八年に、シオニズムに基づくユダヤ人国家として建国されたイスラエルは、全世界のユダヤ人が移民してできた国である。「イスラエルの国民食」などというものは本来存在せず、東欧系や中東系、アフリカ系など、さまざまなユダヤ人が各自の食文化を持ち寄ってできあがったものが、現在のイスラエルの食の実態である。そのなかで、イスラエル建国以前からこの地に居住しているアラブ人（パレスチナ人）の食文化も取り入れられてゆく。くせのないファラーフェルは万人に受け容（い）れられ、イスラエルのどこでも食べられるもの、つまりイスラエルの食の代表格となっているのだ。

「あいつらはおれたちの土地だけでなく、文化も奪っている」。ヨルダン川西岸地区の大学に留学していたとき、パレスチナ人学生から幾度となく聞かされたことばだ。イスラエル建国前後、ユダヤ人民兵による破壊行為によって、八〇万とも一二〇万ともいわれるパレスチナ人がすみかを失い、難民となった。彼らの帰還が果たされぬまま、パレスチナの文化もまたイスラエルに奪われ、あたかも建国後にユダヤ人によって育まれたものであるかのように、観光資源として利用されている。食文化だけではなく建築物や伝統衣装、手工芸もまた、「イスラエル文化」と称される。それに対抗して、パレスチナ側も訴える。この土地は我々のもの、ファラーフェルもまた我々のものだと。近年ついに、エルサレムのアラブ系書店がくだんの絵はがきに手を加えて売りはじめた。イスラエルの国旗の上にはパレスチナの旗のシールが貼られ、うたい文句のイスラエルの文字の上には、修正ペンで大きく×が書かれている。

ただし、ファラーフェルはパレスチナだけの食文化ではない。シリアやレバノンなど、周辺の東地中海アラビア語圏でもソウル・フードとみなされてきた。今年建国六五年を迎えるイスラエルでは、もはや移民ではなくイスラエル生まれの国民が多数を占めており、彼らにとってファラーフェルは生まれたときから身近にある、自身の食文化にほかならない。しかしそれでもやはり、パレスチナ研究者であるわたしは、イスラエルで例の絵はがきを見かけるたびに、呟（つぶや）いてしまうのだ。「ファラーフェルは、パレスチナの食べ物だよなあ」、と。

東エルサレムの有名なアラブ系書店で売られている絵はがき。イスラエルで製造されているものに、手が加えられている

イスラエルで売られている、ファラーフェル・サンドウィッチの絵はがき。近年国内で急増したロシア系移民を意識して、ロシア語のうたい文句が追加されている

ファラーフェル・サンドウィッチの作り方（2人前）

ファラーフェル　6〜8個程度	① トマトとキュウリを1センチ四方程度の角切り、タマネギとキャベツを千切りにする。
ホブズ（ピタパン）　2枚 （丸く平たい、中空のアラブのパン。自然食品店や輸入食料品店で入手可能）	② ＊をつけたものを味をみながら混ぜ合わせ、ソースを作る。さらさらとした状態に仕上げる。
トマト　1個	③ ホブズのふちを切り、中空部分を広げてポケット状にする。絵はがきにあるように、半分に切ってもよし。
キュウリ　1本	④ ファラーフェルと刻んだ野菜類を詰め、ソースをかけてできあがり。中身を潰しつつ食べますが、ソースが染み出さないように気をつけて！お好みでチリソースをかけてもおいしいです。
タマネギ　1／2個	※ ファラーフェルの作り方は、先月号をご参照ください。
キャベツ　1〜2枚	
＊ 練りごま　大さじ4	
＊ レモン汁、オリーブオイル、塩　それぞれお好み	
＊ 水　お好み（少々）	
＊ おろしニンニク　1かけ	

君を幸せにする

人間学のキーワード

マルチモダリティ

Multimodality

金田 純平（かねだ じゅんぺい） 民博 機関研究員

「君を幸せにする」と言われても、声に覇気がなかったり目が泳いでいたりすると信じていいのか不安になる。ヒトは発言内容（言語情報）に加えて、それを言うときの様子、すなわち声の調子（韻律）、表情、視線、身振り、身体接触などといった複数の異なる器官で得られる感覚（モダリティ modality）を統合して発言や場の理解・推論に役立てる。このように複数（multi-）のモダリティを統合することをマルチモダリティとよぶ。マルチモーダル（multimodal）はその形容詞形である。

よく似たことばに「マルチメディア」がある。マルチメディアとマルチモダリティとは密接に関係する概念であるが、その内容に違いがある。マルチメディアは媒体（media）に注目した概念で、たとえば音楽の流れる絵本のように文字、画像、音声といった異なる複数の情報提供媒体を組み合わせることである。一方、マルチモダリティは知覚に関するものであり、同じ例でいえば視覚では文章と絵、聴覚では音楽と読み聞かせの声を知覚し、それらを統合して作品を体験することに該当する。

「マルチモダリティ」の語の使われ方には分野間でずれが見られる。ここでは、マルチモダリティの概念が登場した工学と人文社会系を例にみていきたい。前者では、ヒトと機械（コンピュータ）とのインタフェースに対して使用される。従来のキーボードによる文字入力に対して、現在のスマートフォンなどではマイクやカメラ、センサーを用いた音声・画像・指の動きなどによる入力が可能なマルチモーダル・インタフェースも搭載されている。これはヒトのマルチモーダルな知覚に倣ったものという意味であり、ここでいうモダリティはむしろ情報獲得装置あるいは手段という意味である。

後者では、ヒト同士の会話ややりとり（インタラクション）の研究において、発言内容の記録を超えて、韻律、表情、視線、身振りといった非言語的特徴にも注目した記述・分析をおこなうことをマルチモーダルな記述とよぶ。話すという日常的な行動に潜む、普段ヒトが無意識的におこなっていることを意識化・可視化させる手法である。この場合のモダリティは、知覚可能で何らかの意味や表象を持つと考えられる言語・韻律および各種非言語行動（視線など）の区分を指す。

工学および人文社会系の分野で使用される「マルチモダリティ」に共通することは、複数の装置を用いて異なる特徴を持つデータを得て、それらを統合し利用することである。また、非言語のデータを重視するというポイントが肝要である。言語によるコミュニケーションは抽象的で複雑な内容を処理できるが、そのぶん内容理解のための認知的・時間的コストが大きくエラー（聞き違い）も発生しやすい。一方、感覚知覚や直観的操作（たとえばマウスのクリックやタッチパネルでのスワイプなど）は認知的負担が軽く短時間で済む。マルチモダリティにかかわる研究とは、カメラなどの機器を複数種類用いて、言語情報と対比させながらヒトの直観的な認知や感情、無意識について明らかにしていくことである。

異聞逸聞

国境を越えて運営されるミュージアム

出口 正之（でぐち まさゆき）　民博 民族文化研究部

組織としてみたミュージアム

みんぱくは世界各地のミュージアムとの関係が深い。〝ミュージアム〟とは一般的な用語であり、何をするところかという点では国境を越えても一定のイメージは可能である。しかし、組織面に着目するとじつに多様なので一筋縄ではいかない。東京国立博物館や京都国立博物館と同様に、みんぱくは国立の機関であるから、日本で大規模なミュージアムといえば国公立が多いように思う人もいるだろうが、世界では必ずしもそうではない。世に多いのは民間のミュージアムである。

もちろん、民間といっても営利企業ではない。確かに企業ミュージアムが企業の一部としてミュージアムを有することはあるが、単体のミュージアムが営利企業であるというのは、非常にまれだ。儲（もう）からないからである。それでは一体何かというと、政府でもない組織（NGO）であって、かつ営利でもない組織（NPO）ということになる。多くは社団ではなく財団の形態をとっている。例えば、みんぱくと学術交流協定を提携したズニ博物館はアメリカ先住民の小さなグループによって設立されたもので、NPOであり、NGOである。また、同じくアメリカの北アリゾナ博物館も同様のNPOだが、少々複雑で北アリゾナ博物館財団という資金主体と北アリゾナ博物館法人というふたつの組織が運営している。また、民間の博物館は小さな博物館ばかりではなく、世界最大級であるニューヨークのメトロポリタン美術館もアメリカ自然史博物館もNPOであり、NGOである。

スペインのビルバオにあるグッゲンハイムの美術館

多国籍化する財団

現代美術で有名なアメリカのグッゲンハイム美術館は、ソロモン・R・グッゲンハイム財団が運営して、九〇年代から世界展開を始めた。この財団はベネチア、ベルリン、アブダビ、そしてスペインのバスク地方のビルバオに美術館を有するに至っている。米国美術館の世界展開は「マクドナルド」ならぬ「グッゲナルド」とも揶揄（やゆ）もされたほどだ。多国籍企業ならぬ多国籍財団か。ヨーロッパを中心に、世界的にはこういった流れが拡大しつつあるようだ。みんぱくもこのような波に飲み込まれてしまうことがあるのだろうか。

制服の世界
THE UNIVERSE OF UNIFORMS
世界の制服

法廷という場で制服は、国家権力を誇示し、権威を補強している。
法服を着ている人たちにとって、行動の自由はどこまで許されているのだろうか。

インドネシアの法廷の表と裏

高野（たかの）さやか
日本学術振興会特別研究員

どんな色にも染まらない

裁判、というとどのようなイメージがあるだろうか。おそらくニュースで流れるような法廷の静止画を思い浮かべる人が多いだろう。柵の向こうには真ん中に椅子があり、左右に相対するように弁護士と検事が座っている。そして正面中央の一番奥の少し高いところに、黒い服を身にまとい、にこりともしないで座っているのが裁判官である。この服は法服とよばれる。なぜ黒いかは「どんな色にも染まらない＝公平の象徴」などの説があるが、これも規則で定められた一種の制服である。

この裁判官のイメージは、筆者が調査しているインドネシアでもあまり変わらない。しかし赤道直下にあるインドネシアは、やはり暑い。エアコンがあるのは所長室や裁判官の居室などのごく一部にすぎない。壁や天井からぬるい風を送っている扇風機も、しょっちゅう起きる停電のあいだは止まってしまう。法廷は天井が高くて窓が多く、風とおし良くできているのだが、それでも行き交う人びとの熱気がこもる。

にもかかわらず、裁判官と検察官は丈の長いガウンで体を覆っている。地方裁判所では裁判官の法服は肩から胸元にかけて赤く、首には白いチーフをつける。黒一色なのは検察官、長袖シャツにネクタイを締めているのは弁護士だ。何しろここは裁きの場なのである。当初は、学生気分で半袖にジーンズ姿だった筆者もすぐに、調査者として目立ちすぎないよう襟のついた長袖、爪先の見えない靴という正式な場に出るときの服装を買い足した。

裁判の様子。中央に証人が座っている

見え隠れする裁判官の個性と日常

法廷での裁判官は表情を崩すこともなく、書記官とやりとりしながら裁判を進行していく。検察官や弁護士からはさまざまな書類を受け取る。真実を証言するとの宣誓をうながしてから、証言に耳を傾ける。また、ゆっくりと判決文を読み上げる。

では、その舞台裏はどうなっているのだろうか？ 当然、裁判官は出勤時から黒いガウンなのではない。男性はインドネシアの公務員一般におなじみのカーキ色の上下の服、女性はもう少し幅があるが、上下揃（そろ）いのスーツを着てやってくる。裁判所には各裁判官の居室があるが、そこでもその服装は変わらない。裁判が始まるまでは、同室の裁判官どうしで談笑したり、それぞれの机で食事をとったり、新聞や資料に目をとおしたりと、意外にゆったりした時間が流れている。

朝一〇時ごろになると書記官がやってきて部屋のドアをノックし、「裁判です」と声をかける。すると彼らはおもむろにガウンを服の上からはおり、部屋を出る。戻ってくるとすぐにガウンを脱ぎ、再びそれぞれに割り当てられたロッカーにしまう。そしてときどきは自分でクリーニングに出したりもする。

法服は裁判官にとって、法廷という舞台で堂々と役を演じるにあたって必要な衣装であるようだ。しかし、だとしたら、おそろいの法服を身に付けて難しい顔をした裁判官は、同じ役を割り当てられた個性のない存在なのだろうか？ いや、そうでもないだろう。たとえば裁判中に足を組んでいる人に姿勢を正すよう注意をうながす裁判官もいれば、審理のあいだに携帯電話に出る人もいる。開始時間だってずいぶんルーズだ。法廷という舞台を整えようとするなかでも、さまざまなかたちで人びとの個性や日常が見え隠れする。法廷の表と裏とは、そう簡単に区別できるものでもないようだ。

検察官は黒いガウンを着ている

居室での様子。女性の裁判官も多い

スーツにネクタイ姿の弁護士

事務員の人たち。
ヴェールや帽子で髪をおおっているのはイスラム教徒の女性

月刊みんぱく 2014 5月号

編集後記

新しくなった「中国地域の文化」の本館展示場には「紅色観光」のコーナーがある。共産党の歴史や思想にまつわる土地や物が、観光資源として近年注目されているらしい。共産党の色は「赤」というイメージがあったので、なぜ「紅色」と呼ばれるのか不思議に感じた。中国展示チームのメンバーに聞くところによると、社会主義・共産主義を示す「赤旗」は中国では「紅旗」だし、人道支援を行う「赤十字社」は「紅十字会」だという。日本で「紅」というと、「赤」よりも少し紫がかった色の印象があるので、同じ漢字に対する色彩感覚が、日本と中国では微妙に違うのだということをあらためて実感した。

「朝鮮半島の文化」の展示場も、この春同時にリニューアルオープンしている。日本、中国、朝鮮と、同じ漢字文化圏の伝統色カラーパレットの違いを、展示品を比較して見てまわるというのもおもしろいかもしれない。東アジアのこの三つの地域の実物が同時に見ることができるのは、日本ではみんぱくぐらいではないか。

（山中由里子）

●表紙：影絵人形（「白蛇伝」の白娘子）　標本番号 H0093225
地域：北京市　民族：漢

次号の予告

特集

朝鮮半島の文化（仮）

※みんぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

みんぱくをもっと楽しみたい人のために――会員制度のご案内

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます（特別展示は観覧料割引）。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
（電話06−6877−8893／平日9：00～17：00）

月刊みんぱく 2014年5月号
第38巻第5号通巻第440号　2014年5月1日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話　06-6876-2151

発行人　池谷和信
編集委員　山中由里子（編集長）　樫永真佐夫　河合洋尚　庄司博史　菅瀬晶子　丹羽典生　丸川雄三
編集アドバイザー　山内直樹
デザイン　宮谷一款　長岡綾子
制作・協力　一般財団法人 千里文化財団
印刷　能登印刷株式会社

＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
●阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。
●乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ
http://www.minpaku.ac.jp/
みんぱくフェイスブック
http://www.facebook.com/MINPAKU.official/
みんぱくツイッター
http://twitter.com/MINPAKUofficial

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

国立民族学博物館
ミュージアム・ショップ

お問い合わせ　FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp　水曜日定休
オンラインショップ　「World Wide Bazaar」
http://www.senri-f.or.jp/shop/

『月刊みんぱく』など、みんぱくの刊行物のお求めは、ミュージアム・ショップまで

ラオス、アカ族の手仕事

アカ族は中国雲南省からラオス、ミャンマー、ベトナムの山岳地方で生活する少数民族です。今回ご紹介するのはラオスのアカ族の人びとがつくったもの。多彩な刺繍、コイン、ポンポンなど、伝統工芸を生かした小物類の売上は村の貴重な現金収入になっています。

マスコットいろいろ	400 円
はりねずみ	1,000 円
やもり	1,200 円
ムカデ／こうもり	1,600 円
ネックレス	2,200 円

価格はすべて税抜き価格